2P-48

女子学生の白衣着用に関するイメージ・印象・気分の因子分析

○杉田洋子*　高橋千恵*
（*國學院大栃木短大）

目的　衣服には象徴性があり、また自己表現を行なう非言語コミュニケーションの一手段として着用される側面を持っている。そのため人々は、衣服にステレオタイプ的な意味がある場合には着用者の意志とは異なる意味を被服から読み取っていることがあると考えられる。そこで、実験・実習時などに教員や学生が着用する白衣について、白衣のイメージ、白衣着用者の印象、白衣着用の気分に関する観察側、着用側での両者におけるとらえ方の相違などに関する調査を行い、因子分析法により分析することを試みた。

方法　関東地方に所在する女子短大の学生302 名を対象に、白衣のイメージに関する15項目、着用姿の印象、着用時の気分に関する各30項目、所属および白衣着用経験度などのアンケート調査を実施し、イメージ、印象、気分それぞれの項目ごとに主因子法による因子分析を行い基本因子を抽出した。また、調査対象者を所属および白衣着用経験度別にグループ化し、それぞれ因子得点をもとにグループ間の相違について比較検討を行なった。

結果　白衣に対するイメージの因子分析結果は２因子、着用姿の印象、および着用時の気分ではそれぞれ３因子の基本因子が抽出された。また、イメージ、印象、気分それぞれの因子毎に調査対象者の所属別、および白衣着用経験度別各グループ間における因子得点平均値の差の検定を行った結果、白衣のイメージにおいては２因子ともグループ間の相違は認められなかったが、印象の第２因子（知性）においては着用経験度別グループ間などで有意差が認められた。更に、気分の第１因子（緊張感）、および第３因子（自尊心）においては所属別グループ間、着用経験度別グループ間などで有意差が認められた。